

赤十字 NOW

千葉 | April 2013 Vol. 25

▶ 発行所 / 日本赤十字社千葉県支部 〒260-8509 千葉市中央区千葉港5-7 TEL 043-241-7531 FAX 043-248-6812



©Ichigo Sugawara

「被災地を思い続けましょう」
赤十字広報特使 藤原紀香さんが語りかけた
中学校防災学習会 (印西市立木刈中学校)

紀香さんの講話を聞いた生徒たちからは、「被災した方の苦しみを知った」「少しでも人の役に立つことをしたい」との感想が寄せられました。

「えーっ毛布でガウンが出来るの？」

防災学習会の体験学習に参加した1年生の女子中学生たちが声をあげます。

2月25日(月)、木刈中学校を訪問した藤原紀香さんは、同校武道場で行われた体験学習に加わり、避難所で活躍する毛布を使ったガウン作りに挑戦しました。

赤十字広報特使として、今までに6回、東北の被災地域を訪問した紀香さんは、全校生徒354人の前で優しく語りかけます。「一人ひとりの想いは小さくても、強く想えば必ず伝わる。そうした想いをつないで、平和な世界を築いてほしい」。

生徒たちそれぞれの真っ直ぐな目は、被災地域の明るい未来に向けられていました。
(2面に詳細記事)



©Ichigo Sugawara

CONTENTS April.2013 vol.25

2 赤十字広報特使 藤原紀香さんが体験した 千葉県支部の事業・活動

- 印西市立木刈中学校防災学習会の特別講師
- 日本赤十字社千葉県支部義肢製作所業務体験
- 復興への道のり～東日本大震災記録写真展II～開会宣言ほか

3 121年目の新たな一歩を踏み出しました 日本赤十字社千葉県支部創立120周年記念 千葉県赤十字大会開催

- 全国初 赤十字の人道×美術館の芸術
=∞の復興支援
- 「夢づくり隊」の活動は続きます

4 イベントレポート

- 海猿×赤十字 合同海難救護訓練を実施
遊覧船内で40人をトリアージ
- 全国初「献血女子会クッキング!」開催
～女性ライオンズクラブと取り組む女性のための献血応援～

5

- 121年目の
新たな人道的事業・
活動のために

6 ○Hot news

- 株千葉銀行 創立70周年記念
献血バス「ひまわり号」が活躍します
- お知らせ
新商品続々登場!
超人気のCroKumaシリーズ

「被災地を思い続けましょう」

赤十字広報特使で女優の藤原紀香さんが2月25日、中学校で開かれた防災学習会や東日本大震災記録写真展などに参加し、6回に及ぶ被災地訪問活動の経験を生徒や県民の皆さんに伝えました。



赤十字広報特使の活動を紹介する藤原さん

©Ichigo Sugawara

紀香さんが訪れたのは印西市立木刈(きかり)中学校。生徒たちに交じって毛布で防寒用のガウンを作る方法を学ぶとともに、被災地訪問での体験を報告しました。

青少年赤十字(JRC)を採用する同校では防災教育の一環として、当支部と連携して赤十字救急法の学習、防災やボランティア意識の向上に取り組んできました。

この日は、1年間にわたる防災教育のまとめの日です。特別講師となった紀香さんは、体育館に集まった全校生徒354人の前で、避難所での炊き出しや、リラクゼーションに取り組んだ体験、仮設住宅での被災者との触れ合いなどについて写真を紹介しながら報告。「自宅に帰れない、いつになったら帰れるかわからないという方々がまだ大勢います。皆さんがそうになったら、どう思いますか」と、被災地を思い続けることを呼びかけました。

これに答えて生徒会長の村上直樹君は「被災地の様子はニュースでしか見ることができませんでしたが、実際の体験を聞いて多くのことがわかりました。もしもの場合にはここで学んだことを生かしていきます」と述べました。

震災を忘れない、復興を支援したい

千葉ポートタワー(千葉市)で開かれた「復興への道のり～東日本大震災記録写真展Ⅱ」(千葉県支部、千葉県立美術館など主催、3月11日まで開催)のオープニング行事に出席した紀香さんは、「復興には時間がかかると思いますが、被災地の皆さんの頑張りをこれからも全国に伝えていきます。『震災を忘れない、復興を支援したい』、この写真展を通して思い続けてください」と力強く開会を宣言しました。

写真展は日本赤十字社の救護・復興支援活動や、紀香さんの被災地訪問の様子を伝える写真などを通して、被災地の復興について、あらためて考えようと開かれたもので、昨年に続いて2回目の開催となりました。紀香さんは、創立120周年を迎えた千葉県支部の森田健作支部長(県知事)を表敬訪問するとともに、当支部義肢製作所で義足製作や模擬義足での歩行など、千葉県支部が行う事業・活動を体験しました。



写真展テープカットの様子(千葉ポートタワー)

©Ichigo Sugawara



©Ichigo Sugawara

◀模擬義足での歩行体験(義肢製作所)



ギャラリートークの様子(千葉ポートタワー)

©日本赤十字社 千葉県支部



森田健作支部長を表敬訪問(知事執務室)

©Ichigo Sugawara



義肢製作業務を体験

©Ichigo Sugawara

121年目の新たな一歩を踏み出しました 日本赤十字社千葉県支部 創立120周年記念千葉県赤十字大会開催



名誉副総裁常陸宮妃殿下ご臨場



▲体験発表者へお声掛け
(左)田中喜久子さん(中央)福山翠さん
日本赤十字社有功章のご授与▼
厳かなキャンドルサービス▶



平成24年11月8日(木)、千葉県支部では、日本赤十字社名誉副総裁常陸宮妃殿下をお迎えし、千葉県文化会館を会場に、関係者1,775人が出席のもと、創立120周年を記念する赤十字大会を開催いたしました。

日本赤十字社千葉県支部は、明治25年(西暦1892年)11月16日、日本赤十字社千葉県委員会として創立され、人道機関としての産声を上げました。

激動と変貌の120年、一組織がその間存続できたことは、ひとえに各界のご理解と、たくさんの方々のご支援に支えられた賜物であると、職員及び関係者一同 心から感謝しています。

大会は成田赤十字看護専門学校生によるキャンドルサービスで厳かに始まり、名誉副総裁常陸宮妃殿下のご臨場の後、社業推進にご功労があった個人・法人団体に日本赤十字社有功章がご授与されました。

更には、東日本大震災で被災された旭市赤十字奉仕団 田中喜久子委員長による「震災における赤十字奉仕団活動について」、千葉市立蘇我中学校 福山翠(みどり)さんによる「JRC活動を通して学んだこと」と2つの体験発表が行われました。

千葉県支部職員をはじめ、関係者一同は、大会式典を通して、120年の歴史の重みを体感するとともに、121年目以降の更なる社業推進への誓いを新たにいたしました。



全国初 赤十字の人道 × 美術館の芸術 = ∞ の復興支援 「夢つくり隊」の活動は続きます

3月26日(火)、千葉県支部は、千葉県立美術館と協働する「夢つくり隊」を再結成。東日本大震災からの復興に取り組む福島市に遠距離の「美術教室」を届けました。



▲夢ビルダーカードは無限の創造性を秘めています



▲水彩の抽象表現は「こころ」を引き出します

当日は福島市放課後児童支援施設である「たかくら家キッズハウス」(代表 伊藤朱美さん)の小学生50人が、このワークショップに取り組みました。沿岸部から離れた福島市内でも放射線の影響もあり、屋外で遊ぶ時間も制限され、子ども達には我慢のストレスを発散する機会が必要です。

福島市内2つの高等学校(※)生徒20人も加わった「夢つくり隊」は、子ども達の達成感を引き出し、夢ビルダーカードオブジェ作りでは一緒に汗を流しました。

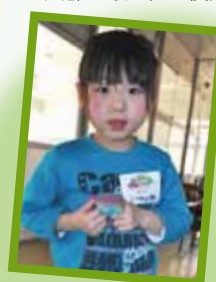
平成25年度においても、「夢つくり隊」は、福島県沿岸部の相馬市やいわき市の保育園・小学校をキャラバンし、日本赤十字社福島県支部が取り組む復興支援活動に協力する予定です。

「夢つくり隊」は、2012年8月、岩手県釜石市内の子ども達を対象に、全国で初めてワークショップを行い、同市の社会教育活動を支援しました。

8月7日(火)、8日(水)の2日間、夢つくり隊は、釜石保育園を皮切りに、甲子学童育成クラブ、大町子育て支援センター、釜石小学校放課後子ども教室の市内4会場をマイクロバスでキャラバンしました。

美術館のワークショップを厳選し、「虹色パレット缶バッジ」「夢ビルダーカードオブジェ作り」の2つの創作活動を、それぞれの会場で行ったものです。

(※) 学校法人 福島成蹊学園 福島成蹊高等学校
学校法人 松韻学園 福島高等学校



自慢げな顔 顔 顔
自己効力感(すれば出来る感)
が生まれる瞬間です



海猿×赤十字

合同海難救護訓練を実施 遊覧船内で40人をトリアージ

「下の船室に意識レベルの低下した方がいます。」「こちらの負傷者の状態が悪化。巡視艇で搬送する順番を変更してください。」

負傷者であふれ返った船内では、救護活動とトリアージ（治療優先度の選別）が行われ、重傷者を海上保安庁の巡視艇などで次々に搬送していきます。千葉県支部は2月18日（月）、千葉港を中心に海難救護訓練を千葉海上保安部などと合同で実施。相互連携や船内救護活動の確認を行いました。



大丈夫ですか！ 意識の確認



海上保安官と協働で搬出活動



狭い船内は救護活動の障害となります



機動性と医療救護 両者の持ち味を活かして

千葉県支部（以下、日赤千葉）と千葉海上保安部（以下、千葉海保）は平成22年に救護活動に関する業務協定を締結。海難事故の際には、日赤千葉に救護班の派遣要請が行われる一方、千葉海保は日赤千葉救護班を海難事故現場まで海上搬送することになっています。

今回の訓練には、千葉県警察本部地域部水上警察隊、千葉市消防局も新たに加わり、計9機関112人が参加。千葉海上保安部の林一馬警備救難課長は「海上交通の高速化が進み、事故被害はより深刻な事態が想定されます。海上保安庁が機動性を、日赤が医療救護を、それぞれの強みを発揮し協力していくことが海難救護には求められます」と合同訓練の重要性を強調します。

状況把握困難な遊覧船上での救護活動

航行中の遊覧船がほかの船と衝突し、約40人が負傷—こうした想定の下、巡視艇「あわかぜ」で現場に急行した日赤千葉救護班は、海保の特殊救難隊とともに船内トリアージと救護活動を実施しました。

特殊救難隊といえば、映画「海猿」シリーズで脚光を浴びている最高レベルのレスキュー能力を持つ精鋭部隊。しかし、トリアージには専門資格を持つ医師や看護師が必要のため、日赤千葉救護班の役割は重要です。救護班員として参加した成田赤十字病院の八木美佐江看護師長は「狭いスペースに多くの負傷者が倒れているため、船内奥の確認に手間取りました」と船上活動の難しさを指摘。西谷慶医師は「トリアージを行った方の状態が、ほかの人を診ている間に悪化するといったケースも。海難事故での全体状況の把握の困難さが分かりました」と訓練の手応えを語ります。「一人でも多くの人命を救いたい!」。

日赤千葉と千葉海保の共通の想いは、双方の強みを活かした救護活動で結実します。

「これがあの食材ですか、おいしいです!」と高濱選手



参加者が作った料理を試食し、「おいしい」と舌鼓を打つ千葉ロッテ高濱選手 全国初 献血女子会クッキング! 開催

せっかく献血にお申込みいただいたのに、低ヘモグロビンで献血ができない—

こうした女性の皆さまの悩みを解決したい!

千葉県支部は1月16日（水）、女性メンバーだけで構成される千葉ゆうきのライオンズクラブとの共催で、健康・献血促進を目的とした、全国初の女性限定の料理教室「献血女子会クッキング!」を開催しました。

会場となったホテルポートプラザちばには、80人の女子が集結し熱気に包まれました。

当支部の事業推進パートナー 千葉ロッテマリーンズからゲスト参加した高濱卓也選手（背番号00）による、食に関するトークショーも楽しく行われ、食と健康への関心は最高潮に達しました。

ホテル前総料理長の小川昭明さん指導の下、80人の参加者は地元食材を使った健康料理に挑戦。できあがった「豚レバーのマリネ カレー風味」などはいずれも好評で、「苦手なレバーがおいしく変わってビックリ!」といった声に参加者から聞かれました。トークショーで高濱選手は「栄養たっぷりのカレーを手作りしたり、食事の最初には野菜を食べています」と、体調管理に気を配った食生活をプロ選手として心掛けていることを紹介しました。

当支部では、成田赤十字病院、千葉県赤十字血液センターと協働し、女性の献血を今後も応援続けます。



千葉ゆうきのライオンズクラブの皆さん女性ならではのおもてなし(受付風景)



プロの仕上げで驚きのフルコースを全員で試食! プロのテクニックに思わず釘付け!



121年目の新たな人道的事業・活動のために

日本赤十字社が行う様々な事業・活動は、「人道」という赤十字の理念に共感していただいた皆さまに、財政面でも支えています。

創立から121年目の新たな一歩を踏み出した千葉県支部は、職員・関係者が一丸となって事業・活動の推進に努めてまいります。平成25年度に取り組む事業・活動へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

事業・活動費の総額と内訳(平成25年度予算)

災害救護体制の充実・強化 **134,788千円**

◇広域大規模災害に備える!!
迅速な救護活動を...

- 救護資機材の整備費
- 救急医療用機器の整備
- 救護看護師の養成費(奨学金など)
- 災害救護訓練に要する経費
- 火災等被災者への見舞金
- 企画・実務を担う職員の給与等



国際活動の充実

6,320千円

◇世界の赤十字と連携して...
苦しんでいる人を救う

- カンボジア義肢センター支援事業
- ネパール、バングラデシュ
青少年教育等支援
- 国際救護要員研修等の経費



健康・安全のための 知識と技術の普及

38,495千円

◇助かる命を救うため 県民に
できる救命・応急手当の講習

- 講習用資機材の整備費
- 講習会開催の経費(指導員旅費ほか)
- 救急法フェスタの開催費
- 臨時救護等経費
- 企画・調整・実務を担う職員の給与等



赤十字奉仕団による活動

34,060千円

◇赤十字のボランティア
活動をより力強く

- 研修会開催の経費
- 会議運営の経費
- 奉仕団活動への助成
- 連絡・実務を担う職員の給与等



義肢製作所の運営

51,728千円

◇障がいをもつ人々の
生活の向上を

- 補装具製作材料費
- 運営諸経費
- 製作実務を担う
職員の給与等



青少年赤十字の活動

30,431千円

◇“気づき、考え、実行する”
子どもを育む

- 合同スタディーセンター、
地区トレーニングセンター運営費
- 国際交流派遣の経費
- 会議、研修開催の経費
- 青少年赤十字指導者協議会活動への助成
- 指導用資材作成費
- 連絡・実務を担う職員の給与等



赤十字精神と社旨の普及 **117,200千円**

◇“人道”の精神を広げ根づかせる...

- 赤十字思想普及に係る広報啓発、イベント経費
- 活動資金の募集に係る経費
- 企画・実務を担う職員の給与等

地域における赤十字活動

81,210千円

◇身近で役立つ赤十字を
地区分区(市町村)の活動に

- 地区・分区への交付金
- 調整・実務を担う職員の給与等

全国的な赤十字事業、 活動に

81,000千円

- 日赤本社が実施する全国的事業・活動費

管理業務に

77,142千円

- 外部監査費等
- 監督及び庶務実務を担う職員の給与等
- 会館保守管理、予備費

各事業共通管理運営に

71,836千円

- 備品消耗品費、光熱水費、通信運搬費等
- 損害保険料、諸税等
- 職員研修・福利厚生費等

事業・活動費 **724,210千円**

雑収入等
(補装具製作収入ほか)
104,210千円

協力をお願いする資金
620,000千円

一般会計
歳入 724,210千円
歳出 724,210千円
差引額 0千円

千葉銀行寄贈の献血バス 「ひまわり号」が活躍します

3月6日(水)、千葉銀行から千葉県支部に寄贈された移動採血車(献血バス)「ひまわり号」の贈呈式が行なわれました。「ひまわり号」は、贈呈式の後に実施された同行本店行員の皆さま対象の職域献血で早速大活躍しました。今後は県内の様々な献血会場を巡ります。

平成25年3月31日に創立70周年を迎えた同行は、「ひと・環境・産業の未来を育む」をコンセプトに社会貢献活動を実施しています。このうち「人の未来を育む」とこと、赤十字の人道活動が一致したことから、当支部では、平成22年度を皮切りに、同行から様々な支援をいただいています。

贈呈式では同行の市原克巳取締役専務執行役員が、「移動採血車を献血の受け入れ強化に活用して、県内の血液事業が充実されることを願っています」と挨拶し、当支部の安田敬一副支部長にゴールデンキーが手渡されました。

市原克巳取締役専務執行役員(左) 安田敬一副支部長(右)



ひまわり号を前にキー贈呈



同行本店を会場にした職域献血(千葉市中央区)

お知らせ

新商品続々登場

超人気の CroKumaシリーズ

人の気持ちを優しくし、癒してくれる「くま」のぬいぐるみ。CroKumaとは、「赤十字とみんなの気持ちをクロスするくま」から名付けられました。



くろくま救護服



ふわふわ~になって新登場!!
かわいい CroKuma の
チャーム付き。

※チャームは背中側に付いています。
その他、赤十字救護服、ナース服を着用した
くろくまも新登場。

くろくまナース



CroKuma(くろくま・ぬいぐるみ)

価格 800円(消費税込・送料別)

■サイズ 各10cm

CroKuma(くろくま)の商標登録を取得しています
登録商標第5344136号

ご購入を希望される方は、直接(株)日赤サービスまでお申込みください。
(ご照会・ご注文は) (株)日赤サービス Tel 03-3437-7514 (商品担当)
<http://www.nisseki-service.com/>

または

